



片山かおるの ちょっとカエル通信

3号



おとなも子どももいっしょに育つ町にしよう

2008年11月25日

片山かおるの市政 Watching!



子どもが関心を持ってほしい。「子ども条例」

11月10日の厚生文教委員会で「小金井市子ども条例」に関する陳情と条例の審議がありました。時間切れとなり、結論は12月議会へ持ち越されました。

わが家の2人の子どもたちに「小金井の子どもの権利条例から『子どもの権利』が取られちゃったんだよ」と伝えたら、「ええ??なんで?子どもの権利がなくなっちゃうの?」と大騒ぎ。そこで、学校が終わったあと、いっしょに傍聴に行くことにしました。

小学生は初めての議会傍聴に緊張したようです。「僕が席に座る時に教育長や市長がギロツと睨んで恐かった～」と言っておりました。「ぼうちようけん、って子どもももらえるんだね～こんど放課後に友だちと行ってみようかな～。」「先生にもこの条例のことを教えてあげよう」と興味がふくらんだようです。

中学生にとっても、言葉が難しくて審議の中身はよくわからなかったようですが、「権利の日がいらぬ、って市長が言う理由がよくわからなかったな～」とか「健全な成長のために、権利の保障があるってどういうことなんだろう?」とか、審議の流れはちゃんと追ってるんだ、と感心しました。

子どもに関わる条例に、子どもが興味を持つのは当然。小学校の社会科見学や中学校の生徒会で、市議会の傍聴に行くのも社会勉強になっていいですね。来年は『子どもの権利条約』の国連採択から20周年。本当に子どもに寄り添った、子どものための条例を作ってもらいたいと思います。次の厚生文教委員会は12月5日(金)午前10:00からです。ぜひ、子どもに負けず傍聴にトライしてみてください。

安心して産みたい! 原島圭子 中町

かちよつと

「すぐに出産場所を決めて、今日にでも予約を。早くしないと定員になっちゃうから」。この夏、市内の婦人科で懐妊報告に続けて言われたこと。三回めの妊娠ですが、このような言われようは初めて。“産む場所が減っている”現実が、急に自分の身にせまってきました。

都内での死亡事故に続き、調布の脳内出血の妊婦さんが杏林大学病院など7病院から受け入れを拒否され、意識不明という事故も明るみに。脆弱な産科状況を目の当たりにしながらの妊婦生活は、それだけでストレスです。

分娩施設の減少に拍車をかけそうなのが、来年1月から始まる「産科医療補償制度」です。分娩が原因で起こった脳性まひ児のみを対象に、妊婦ひとり3万円の掛け金を払い、医療や養育を補償するしくみです。私たち側にとっては分娩費がそのぶん上乗せとなるし、医療施設側には事務負担や設備増設などが求められることなどから、これを機に産科はやめようか……という声もあるそうです。ますます産む場所がなくなっちゃうの!?(くわしくは片山かおる HP へ)



片山かおると

いっしょにかえる小金井の会



〒184-0013 小金井市前原町5-16-6
tel: 042-387-7035 fax: 042-380-8271
e-mail: kaoru_09@bds.so-net.ne.jp
http://katayamakaoru.net

片山かおるプロフィール

1966年12月長崎県生まれ。4才から杉並区で育つ。
1995年より小金井市在住。連れ合いの水由章と中1と小4の男の子たち、猫たちと前原町に暮らす。8ミリ映画制作。個人・実験映画を配給。
小金井子育て交流会「す〜ぶ」、つくろう!子どもの権利条例の会、8mmFILM小金井街道プロジェクトなどに参加。「教育ってなんだろう?」こがねい連絡会世話人、武蔵野はらっぱ祭り実行委員会事務局、One's Eyes Film代表、市民自治こがねい運営委員

住民の不安に応じて、衛生研の説明会を!

11月11日の総務企画委員会で、「米軍府中基地跡地(府中市浅間町)への国立医薬品食品衛生研究所移転に関する説明会を求める陳情」の審議があり、私は陳情代表者として意見陳述をしました。採決は12月議会へ持ち越されました。

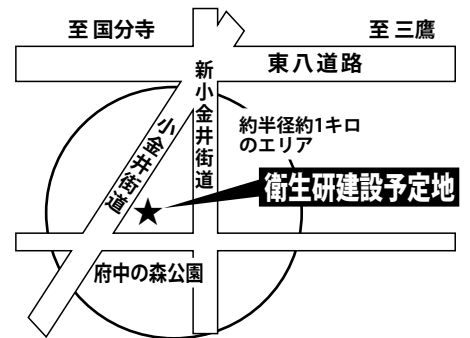
陳述では、11月8日の『衛生研についての学習会』(講師:元国立感染症研究所職員の新井秀雄さん)で聞いた、「火事が起きても、放水した水を通じて病原菌が広がる可能性があるので、通常の消火活動ができない」「放射能のように漏れた場合の監視システムがないので、事故が起きて、排気や排水から菌が漏れても、住民にはすぐにはわからない」といったことを強調しました。1999年には府中市は衛生研に半径1kmの住民への説明を求める文書を出しているのに、小金井市として、府中市から衛生研に対して説明会の範囲を広げるよう要望するよう求めました。

委員会全体としては、不安はわかるので、説明会の必要性はあるのでは、という雰囲気でした。企画政策課は衛生研と連絡を取っているのだから、早期の説明会開催を求めたいです。

追加署名はまだ提出できます。ぜひ御協力ください。いろいろな人から陳情を出してもいいですね。関心を持つ人が少ないと、なんの説明もなく、いきなりとんでもない施設がすぐ近所に

できてしまうかも知れません。

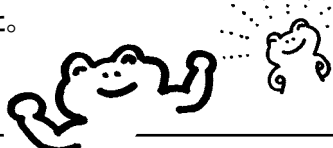
12月9日(火)
午前10:00からの
総務企画委員
会で審議されます。
こちら注目して
ください。



『武蔵野はらっぱ祭り』が終って

インディアンサマーと呼べる青々と晴れた11月2日、くじら山下はらっぱで『第20回武蔵野はらっぱ祭り』が開催された。「民度が高いね。こんな大規模なお祭りなのにゴミが全然落ちてない。」「お祭りに来るというより、のんびりゆったり過ごしてくる、という人が多いように思った。」「保育所の昔の知り合いにいっぱい会えてうれしい。」「来年は本部の豚汁づくりを手伝うよ。」などなど参加者からの様々な感想…。

みんなそれぞれの居場所で楽しむことができる『はらっぱ祭り』は、よく聞かれる【幸せ度】が抜群に高い祭りと言えるかもしれない。“多様な表現を認めあう”という祭りのテーマは、芸術や文化の表出だけを指すのではなく、人と人が交流しあう在り様のことを言っているのだ、と改めて思う。そして、市民有志が作るこんなお祭りを受け入れる地域というのは、まさに民度が高いんじゃないか、と希望を持った。(片山かおる 前原町)



**応援
メッセージ**
可知めぐみ
(東町)

「言葉のやりとりをするとき、2つのタイプがある。ひとつはドッチボール型、もうひとつはキャッチボール型」という話を読んで、なるほどと思った。言葉をぶつける人に出会うと返す言葉が出ないが、受け止めやすい言葉を投げ、こちらの言葉もうまく受けてくれる人に会うと楽しい。市民活動と一緒にしてきた片山さんは、キャッチボールができる人だ。キャッチボールをしながら、まわりに人の関係を紡ぐ片山さんに希望を見つけた。(編集者/「教育ってなんだろう?」こがねい連絡会世話人)

「片山かおるといっしょにかえる小金井の会」

(略称:かおるの会)へのお誘い

～みんなで知恵を出し合って、片山かおると共に、これからの小金井の町づくりを考えていきませんか?～

かおるの会は、「平和」「人権」「民主主義」を基本理念に、市民参加で安心して暮らせる小金井市をつくるために活動しています。

会費は年1口1,000円。カンパも大歓迎!

郵便振替口座 00120-5-357785

加入者名「片山かおるといっしょにかえる小金井の会」



お知らせ

★12月6日(土)7日(日)「8ミリフィルムにみる小金井市50年の記憶」(於:小金井市公民館本館、主催:One's Eyes Film)『子どものアリエッタ』『ゆう・そう・もぐら・他』など、片山かおる制作の8ミリ作品も上映。

★12月6日(土)13日(土)「パフォーマンス de リフレッシュ!」(於:公民館緑分館、主催:回帰船保育所なんでも塾)講師:イトー・タリー『セルフイメージを壊してみよう』をテーマにしたワークショップ。

小金井市議会議員選挙は
来年3月29日投票です。

市議会議員・漢人あきこと

「市民自治こがねい」も、片山かおるを応援しています